



【世界の今を知る】

紛争鉱物とコンゴの現実 ～私たちにできる支援とは～

▲鉱物採掘の様子（記事内写真提供：認定NPO法人テラ・ルネッサンス）

▼ 目次【VOL.154】

- 2-3 【世界の今を知る】
紛争鉱物とコンゴの現実
～私たちにできる支援とは～
- 4-5 FUNN活動レポート
- 6 FUNN加盟団体活動レポート
- 7 NGO相談員報告・イベント情報

今年度NGOカレッジでは、第一回にて紛争鉱物の問題を取り上げました。それに引き続き今月号の「世界の今を知る」では「なぜコンゴで紛争が起きているのか、紛争鉱物とは何か」について取り上げています。

現在もコンゴでは紛争で多くの方が苦しんでいます。私たちにできることは何か一緒に考えてみませんか？

記事は次のページから



コンゴの歴史と紛争

コンゴ民主共和国はアフリカ中部に位置し、日本の約6倍の広さを持つ国です。人口は約1億人とされ、アフリカで4番目に多い国でもあります。豊かな森林や鉱物資源があることから「アフリカの宝石箱」とも呼ばれていますが、その豊富な資源が長年にわたる紛争や社会不安の原因にもなってきました。

コンゴの歴史は複雑で、多くの苦難を経験しています。15世紀以降ポルトガル人が最初に接触し、奴隷貿易が始まりました。19世紀後半にはベルギー国王レオポルド2世が「コンゴ自由国」を私有地として支配し、ゴムや象牙の搾取が行われ、多くの先住民が過酷な労働に従事させられ命を落としました。その後、1908年にベルギー領コンゴとして正式にベルギーの植民地となりましたが、搾取と抑圧の歴史は続きました。

1960年にコンゴは独立を果たし、パトリス・ルムンバが初代首相に就任しましたが、国内の権力闘争や国際情勢の影響でルムンバは暗殺され、その後1965年にモブツ・セセ・セコがクーデターで権力を握りました。モブツは国名を「ザイール共和国」と改め、長期独裁体制を築きましたが、汚職が蔓延し経済は悪化しました。

1997年、モブツ政権が崩壊し、ローラン・カビラが大統領に就任しました。しかし隣国ルワンダやウガンダとの関係悪化をきっかけに、1998年に「第二次コンゴ戦争」が勃発。これは「アフリカの世界大戦」とも呼ばれ、約500万人が犠牲となる大規模な戦争となりました。2003年に和平合意が結ばれましたが、現在も一部の地域では武装勢力の活動が続いており、社会の安定には課題が残っています。

紛争鉱物とは？

コンゴの紛争が長期化する原因の一つに「紛争鉱物」があります。これは武装勢力の資金源となる鉱物のことで、特にコンゴやその周辺地域で採掘される以下の4つが代表的です。

◆タantal：スマートフォンやパソコンのコンデンサ（電気をためる部品）に使用される。

◆スズ：電子基板のはんだ付けや食品缶のコーティングに使用される。

◆タングステン：スマートフォンのバイブレーション機構やドリルなどの工具に使用される。

◆金：スマートフォンやパソコンの配線、ジュエリーに使用される。

これらの鉱物は私たちの身近な電子機器に欠かせないものですが、コンゴ東部では武装勢力が鉱山を支配し、違法に採掘・売買しています。これにより得た金銭が武器の購入資金となり、戦闘の継続や暴力の拡大につながっています。その結果、住民は強制労働を強いられ、児童労働や性暴力といった深刻な人権侵害が発生しています。



コンゴの町の様子



採掘された鉱物



▲ 鉱物採掘の様子

ムクウェゲ医師の取り組み

こうした紛争の影響で特に深刻な問題となっているのが、武装勢力による性的暴力です。これに立ち向かうのが、デニ・ムクウェゲ医師です。ムクウェゲ医師は、コンゴ東部のパンジ病院で、暴力の被害に遭った女性や子どもたちの治療と心のケアに尽力しています。彼はこれまでに数万人の被害者を治療し、さらに彼女たちが社会に戻れるようにカウンセリングや職業訓練などの自立支援活動も行っています。2018年には、その功績が評価されノーベル平和賞を受賞しました。ムクウェゲ医師は「女性たちが人としての尊厳を取り戻せるように」と、今も活動を続けています。

日本のNGOの取り組み 認定NPO法人テラ・ルネッサンス

日本のNGOは複数の団体が長年コンゴの人々を支援しています。今回は先日開催したNGOカレッジでも登壇していただきコンゴでの活動紹介を行っていた認定NPO法人「テラ・ルネッサンス」の取り組みを紹介します。

テラ・ルネッサンスでは以下の取り組みを通じて人々の生活再建に貢献されています。

- ・武装勢力に徴用された**元子ども兵**に対する裁縫や農業、木工の職業訓練
- ・紛争で夫を失った女性や、性暴力の被害を受けた女性への**技術研修**や**小規模融資**
- ・紛争の影響で家を失った避難民に対する**食糧や医薬品、生活必需品の支援**
- ・次世代の平和構築を目指した**平和教育プログラム**や学校の建設

更に2025年に入ってから激化した武装勢力「M23」と政府軍の衝突に対応し、避難民への緊急支援も行

っています。食糧の配布や医療支援、避難所の整備など、危険の中でも命をつなぐ活動が続いています。



▲洋裁技術訓練の様子



▲コンゴ緊急
支援の寄付は
こちらから

日本に住む私たちにできること

日本に住む私たちがコンゴの平和と安定のためにできることもあります。

- ・フェアトレード認証や責任ある鉱物調達プログラムに参加する企業の製品を選ぶ。
- ・テラ・ルネッサンスなどのNGOに寄付することで、現地の支援活動を間接的にサポートする。
- ・SNSや勉強会で、紛争鉱物やコンゴの現状について周囲に伝える。
- ・日本政府や企業に、責任ある鉱物調達を求める署名活動に参加し、声を届ける。

私たちが普段使っているスマートフォンやパソコンの背後には、遠く離れた地での苦しみが見え隠れしているかもしれません。こうした問題を知り、より良い選択をすることが、平和への一歩につながるのです。

(文章：松崎浩平 (NGO福岡ネットワーク職員))

-
- 〈参照〉・外務省ホームページ コンゴ民主共和国基礎データ
・ロイターニュース「国連、コンゴ反政府勢力が占領した鉱山地帯で毎月30万ドルを稼いでいると発表」2024年10月1日配信
https://www.reuters.com/world/africa/un-says-congo-rebels-generating-300000-monthly-seized-mining-area-2024-09-30/?utm_source=chatgpt.com
・認定NPO法人テラ・ルネッサンス
・NPO法人RITA-Congo
・『ムクウェゲ医師、平和への闘い「女性にとって世界最悪の場所」と私たち』著：館山芽以子・華井和代・八木亜紀子 (岩波書店)
・『あなたとSDGsをつなぐ「世界を正しく見る」習慣』著：原貴太 (檜書局)



第24期NGOカレッジ

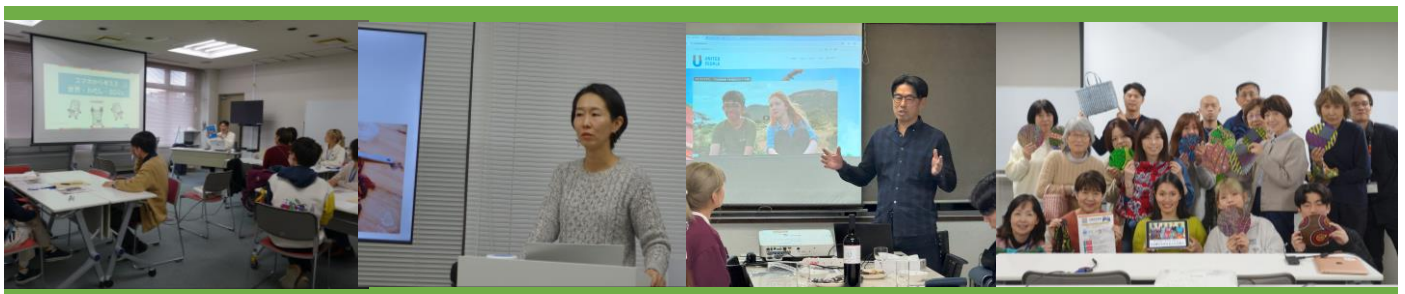
『身近なものから「知る」「学ぶ」国際協力』実施報告



2025年の2月と3月に第24期NGOカレッジ『身近なものから「知る」「学ぶ」国際協力』を実施しました。今年度は、国際協力に興味はあるけどあまり接点のない方をターゲットに、スマホ・ハーブティー・蜜蝋（みつろう）ラップ・ワインの4つの題材を用いて国際協力についての理解を深めました。

第1回は、開発教育協会(DEAR)の教材を使ったワークショップを行い、認定NPO法人テラ・ルネッサンスの伊藤あかりさんから、実際のコンゴでの活動について伺いました。参加者の中には高校生や大学生もあり、講座を通して彼女たちの国際協力に対する興味を引き出すことができたようで、良い時間になったと感じました。第2回は、デメテルハーブティーの事業で、カンボジアで生産しているハーブティーを試飲しつつ、西口三千恵さんの話を伺いました。とてもおいしく、意義深い西口さんの活動にも共感し、会終了後には多くの参加者がハーブティーを購入しながら西口さんとの交流する様子が見られました。第3回は、蜜蝋ラップを作成するワークショップをAfricAsia(アフリカジア)の渡邊亜美さんに行っていただき、団体の活動内容などを伺いました。和気あいあいと蜜蝋ラップを作りながら、そこで使用したアフリカ布を通して参加者と渡邊さんとの活発なやり取りが行われました。番外編では、ユナイテッドピープル株式会社のピースワイン事業で販売しているワインを飲みつつ、関根健次さんから事業開始の経緯やその内容について伺いました。参加者の全員が希少なワインの味わいに感動し、お酒も入っていることから、国際協力に関する熱い議論が自然と起こっていました。FUNNでインターンをしていた学生が詳しい活動報告を書いてくれていますので、ぜひFUNNのHPからご覧ください。

全4回すべてが参加者と講師の方々のおかげでとても有意義なものとなりました。この場を借りて改めて御礼申し上げます。国際協力の活動に参加したことのない方に対しての広報に難しさはありましたが、参加者それぞれが様々な所から情報から見つけてくださり、非常に関心の高い方々に参加していただきました。講師の方への質疑や、参加者同士の交流も活発で、参加者の国際協力に対する意識もさらに向上したと思います。そこから次に必要なものは、活動してみたいと考える方々の活動場所だと考えます。国際協力活動への参加のハードルの高さや継続の難しさは、現在活動している我々が痛感している部分ではありますが、私たちは加盟団体やこれまで関わってきた方々と一緒に、国際協力がより身近に楽しいものにできるようにこれからも考えていきたいと思っています。(報告：塩塚洋平(NGO福岡ネットワーク職員))



▲ 第一回の様子

▲ 第二回講師の西口さん

▲ 番外編講師の関根さん

▲ 第三回参加者と講師の渡邊さん



たぶプラミーティングvol4「他地域の事例から学ぶ 多言語・多文化理解における『仲間』のつくりかた」実施報告

たぶプラ・ミーティング4回目は「他地域の事例から学ぶ 多言語・多文化理解における『仲間』のつくりかた」と題して2024年12月19日にアクロス福岡とオンラインのハイブリッド形式にて実施いたしました。講師に佐藤 寛さんをお呼びして、在留外国人の背景や課題、多文化共生について日本各地での様々な事例をお話しいただきました。その後参加者の方と共に、ディスカッションの時間を設け、参加してくれた在留外国人の方から日本に暮らす中で困ったことや課題と感じていることについてお話しいただき、両会場の方からも様々なコメントをいただきました。参加者からは、当事者の方の話が聞けて良かったという声や佐藤さんのお話から様々な現場を知れて良かったという声が多数聞けて、良い時間となったと感じました。今年度のたぶプラ福岡としての活動は12月までですが、次年度以降の活動も現在計画し、歩みを進めています。また詳細が確定しましたらお知らせ致しますので、次年度もたぶプラ福岡の活動をよろしくお願いします！（報告：多原真美（NGO福岡ネットワーク職員））



▲イベントの様子

FUNN インターン報告

2ヶ月間FUNNでインターンをしてくれた二人に、活動を通して印象に残ったことや感想を報告していただきました！



加藤 渚
(福岡工業大学1年)

約2か月間、FUNNでインターンをさせていただきました、福岡工業大学1年の加藤渚と申します。短い期間でしたが、NGOカレッジやプレゼンテーションなど貴重な経験をさせていただき、多くの方々と交流する中で考え方が大きく変わるきっかけを得ました。特に第2回NGOカレッジでは、フェアトレードのお菓子の調査・選定を担当し、プレゼンも経験しました。緊張しましたが、将来に役立つ学びとなりました。短い間でしたが、温かく迎えてくださりありがとうございました。FUNNの皆さまのさらなるご活躍を応援しております。



笠原 健
(福岡大学2年)

福岡大学二年の笠原健と申します。自分がFUNNで活動している間は普段関わらないような方々とながりを持つことが出来、二か月という短い期間ではあったものの大変良い経験になったと思います。自分が活動の中で最も印象的だと感じたのは、NGOカレッジ番外編です。ここではユニテッドピープル株式会社の関根健次氏との対談を通して大切なことに数多く気づくことができ、自分の将来に対して自信を持つことが出来ました。短い間ではありましたが、FUNNを通して自分の成長に与して下さったすべての方々に、心より感謝申し上げます。



(認定) NPO法人ISAPH 活動報告

ISAPHマラウイ事務所・萩原の帰国報告会を開催しました

2025年1月25日、ISAPHのイベント『国際協力はじめて9カ月の看護師がアフリカで働いてみて考えたこと』を開催しました。本イベントはISAPHマラウイ事務所の看護師・萩原の国際協力に携わる前と後の心境の変化、現地で活動をして分かった日本との違いやマラウイの良い所、そこで行ったISAPHの国際協力活動の報告会です。萩原は、マラウイ人のおおらかな性格や子育ての様子、考え方などから多くの学びを得たようです。

当日はISAPH東京事務所とオンラインのハイブリット形式で開催し、両会場共に病院に勤務する看護師や助産師、看護学生などの医療関係者、JICA海外協力隊員の方などの医療や国際協力に関わった経験のある方や、これから国際協力に関わりたい方々など多くの方にお集まりいただきました。「参加者が萎縮せず、気楽に話せるように」と、質疑応答の時間はお茶会形式を取りました。萩原がマラウイで購入した現地のお茶とお菓子を共に、両会場の参加者がざっくばらんに楽しく交流ができ、マラウイでのISAPHの活動を知っていただけたと思います。参加者からも

「現場の具体的な問題意識について知ることができ、刺激になった」「伝えたいことに対する熱量が伝わってきてとても良かった」など、ご好評いただきました。

マラウイをはじめ、後発開発途上国と呼ばれる国々には依然として栄養不良や貧困など様々な問題があります。ISAPHは今後もこれらの改善のために尽力し、支えてくださる皆様への報告を行い、皆様と共に国際協力活動を行っていきたいと考えています。（報告：(認定)NPO法人ISAPH 村上麻友子）



▲マラウイの調理実習にて。
お母さんたちの笑顔



NPO法人 Bangladesh と手をつなぐ会

「Bangladesh 料理教室」実施報告

2025年2月9日（日）、福岡市中央区にある「あいれふ調理室」にて、Bangladesh 料理教室が開催されました。本イベントには23名（大人 20名、小学生 3名）が参加し、異国の料理や文化を学ぶ貴重な機会となりました。午前10時から講師のヌレンさん（九州大学学術研究員）による挨拶の後、さっそく調理が始まりました。今回のメニューは「Bangladesh 風チキンとひよこ豆のカレー」「ナン（パラタ）」「ジョルダ（オレンジライスのデザート）」「サラダ」の4品。参加者はグループに分かれ、ヌレンさんの指導のもと、スパイスの使い方やBangladesh 料理の特徴を学びながら、楽しそうに料理を進めていました。13時から、完成した料理を味わいながらの食事会が行われました。参加者からは「スパイスの香りが豊かでおいしい」「家庭でも作ってみたい」といった感想が聞かれました。引き続き交流会が行われ、ヌレンさんによるBangladesh の文化や食習慣に関するお話、参加者同士の自己紹介が和やかな雰囲気の中でおこなわれました。最後に代表による閉会の辞と集合写真撮影が行われた後、後片付けをし、15時には解散となりました。異文化に触れながら楽しく学べるイベントとなり、参加者にとって貴重な体験となりました。



▲調理説明中の様子

（報告：NPO法人 Bangladesh と手をつなぐ会 事務局 山田英行）



NGO相談員活動レポート

海外ボランティア・
国際協力に関する相
談はコチラから→



長崎市にてNGO入門講座&相談会を開催しました

2025年2月1日、長崎市市民活動センター「ランタナ」にて、NGO入門講座&相談会を開催しました。当日は社会人から高校生まで11名の方にご参加いただきました。本講座では「世界を変える一歩を踏み出そう」というテーマのもとFUNNスタッフが講演を行い、参加者同士のワークショップを実施しました。

入門講座終了後は多くの参加者より、国際協力や海外ボランティアについてのご相談もいただきました。高校生の方からは高校の探究学習の一環でボランティアについて知りたいという相談があり、海外ボランティアや日本国内の地域ボランティアとのつながりについて解説したほか、その他の方からはNGOや国際協力に関するキャリア相談、アフリカで活動しているNGOについてや関わり方について、団体間でのネットワークづくりについてのご相談もいただきました。

参加者の方々からは、「国際協力の基本から、実際に自分ができる国際アクションまで幅広く学ぶことができた。」「フェアトレードに興味があるので、さらに詳しく知りたいと思った。」「意見交換を通じて、自分の視点だけでなく、他の人の考えを知ることができた。」という感想をいただきました。（報告：松崎浩平（NGO福岡ネットワーク職員））



▲NGO入門講座の様子

FUNN周辺 “おすすめイベント” 情報

【AAR Japan】

4/13（日）映画「ノー・アザー・ランド 故郷は他にない」上映記念 AAR Japanトークイベント@佐賀

- ◆日時：2025年4月13日(日)
13:50～15:35 映画上映
15:45～ トークイベント
- ◆会場：シアター・シエマ（佐賀市松原2-14-16）
- ◆参加方法：本講演は、映画「ノー・アザー・ランド 故郷は他にない」をご観覧の方々がご参加いただけます。
- ◆定員：20名（※予約優先）
- ◆主催：シアター・シエマ
- ◆共催：AAR Japan「難民を助ける会」
- ◆お問い合わせ、お申し込み
シアター・シエマ
電話：0952-27-5116（9時30分～19時）
Mail：ticket★ciema.info（★を@にご変更ください）
「①イベント名、②氏名、③電話番号、④参加人数」をご記入の上、ご送信ください。

【トゥマンハティふくおか】

どんたくパレードに参加しませんか！

今年も博多どんたく港まつりどんたくパレードに『インドネシア共和国どんたく隊』として参加します。

- ◆出発予定日時：2024年5月4日 15時22分
（14時に冷泉公園集合、パレード終了時間は16時頃）
- ◆定員：200名まで
- ◆参加費：無料
- ◆服装：自由（インドネシアの衣装を持っている方は、着てきてください）

インドネシアの留学生・技能実習生・社会人、インドネシア好きな日本人・家族、みんな一緒に明治通りをパレードいたしましょう。インドネシア人以外の方でも参加歓迎！インドネシアをご存じない方は、この機会にインドネシアの魅力を知ってください。

お申し込みは下記URLもしくはQRコードから
<https://forms.gle/oEFQhMFN7ANjDnMW7>



たぶプラ・福岡の活動に参加してみませんか？



FUNNでは今年度「多文化共生の担い手がつながるプラットフォーム福岡（通称：たぶプラ・福岡）」事業に取り組み、在留外国人の支援に取り組む方々が集える場づくりを行ってきました。2025年度も継続し、たぶプラ・福岡の活動を実施するに辺り、一緒に活動に取り組んでくれる仲間を募集しています。

多文化共生の活動に取り組んでいる方はもちろん、地域の外国人の方との関わりのある方や日本語学校のボランティアさんなども大歓迎です！私達の活動としては、地域で在留外国人の支援に取り組む方々が集う場作り事業や、ネットワークづくりを実施する予定としています。ご関心のある方はNGO福岡ネットワークまでお気軽にご連絡下さい！！



FUNN会員募集中！※金額は年会費です。詳細はORコードページまで！

- ・正会員（団体） ¥10,000 ・賛助会員（企業） ¥30,000
- ・賛助会員（個人） ¥6,000 ・通信会員（個人） ¥3,000



寄付の振込先 ※会費振込もこちらの口座まで

【西日本シティ銀行】

加入者名/名義人：NGO福岡ネットワーク
カナ名：トクヒ エヌジーオーフクオカネットワーク
支店番号：208 （赤坂門支店）
口座番号：普通 1641291

【郵便振替】

加入者名：NGO福岡ネットワーク
口座番号：01790-7-89478

※通信欄に「FUNN応援募金」とご記入ください。



編集後記

先日開催したNGOカレッジでは、私個人の趣味でもあるお酒をテーマとし、「お酒から国際協力について考える」番外編を開催しました。企画段階ではどうなるか不安ではありましたが、開催してみると、参加者の方々がワインを片手に自由に国際協力の話をする良い時間となりました。また実施したいと思っていますので、次回の企みも乞うご期待下さい！（編集：多原）



FUNN正会員団体リスト

- * (認定)NPO法人ISAPH
- * アジア開発銀行福岡NGOフォーラム
- * (特活) アジア女性センター
- * (一社) NTDs Youthの会
- * (特活) 九州海外協力協会
- * 債務と貧困を考えるジュビリー九州
- * 佐賀NGOネットワーク
- * JVC九州ネットワーク
- * (特活) じゃっど
- * 認定NPO法人地球市民の会
- * チベットを知る会
- * NPO法人トゥマンハティふくおか
- * 認定NPO法人難民を助ける会
- * ネパール歯科保健医療協会(ADCN)
- * (特活) バングラデシュと手をつなぐ会
- * PP21ふくおか自由学校
- * 福岡YMCA
- * フレンズ国際ワークキャンプ九州
- * (一社) ミドリゼーションプロジェクト
- * (一社)モザンビークのいのちをつなぐ会

【編集・発行】

FUNN 特定非営利活動法人
NGO福岡ネットワーク

〒812-0011

福岡市博多区博多駅前3-6-1

小森ビル4A 福岡NPO共同事務所「びおとーぷ」内

FUNN公式ホームページ
最新情報はコチラから



* 受付時間：火～土 13:00～18:00

* 日・月・祝・・・休み



092-405-9870



funn@ngofukuoka.net



https://ngofukuoka.net/